様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　３ 日現在

機関番号：２６４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１２２６２

研究課題名（和文）統合失調症者の自我機能に注目するセルフマネジメント促進の看護ケアモデル

研究課題名（英文）Nursing care model to empower schizophrenic patients for self-management focusing on ego function

研究代表者
田井　雅子（Tai, Masako）

高知県立大学・看護学部・教授

研究者番号：５０３８１４１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、統合失調症をもつ若年者の自我機能に注目するセルフマネジメント促進の看護ケアモデルを作成することである。統合失調症をもつ若年者に対してケアを行った経験のある精神科看護師、精神看護専門看護師に面接調査を行った。その結果、ケアモデルにはセルフマネジメント促進の看護ケアを行う際のアセスメントの視点、具体的な看護ケアの内容、ケアを行う看護師の姿勢を含むことが必要であると考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
統合失調症者のセルフマネジメントが促進することは、生活の主体者として、自らの生活をよりよく生きることの促進につながる。それは当事者の地域生活の安定、地域生活の継続に貢献すること、さらに、自己効力感が高まることで自信を取り戻し、より積極的な人生を送ることや、生活の質を向上させることにもつながり、当事者のリカバリーの促進に貢献できる。臨床の看護師に対しては、将来を見通し、地域生活や社会生活の充実に向けたケアを実践するための根拠を提供でき、入院医療から地域生活中心の医療への推進に寄与する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a nursing care model to empower young adults with schizophrenia for self-management focusing on ego function. The study was conducted with psychiatric nurses and psychiatric certified nurse specialists. Semi-structured interview was used for collect data. As a result, it was considered that the nursing care model for promoting self-management skills to include the viewpoint of assessment, the content of specific nursing care, and the attitude of psychiatric nurses.

研究分野：看護学

キーワード：精神看護　統合失調症　若年者　セルフマネジメント　自我機能　看護ケア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

厚生労働省は、2009 年の「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」において、精神障害者に対する地域を拠点とする共生社会の実現を目指し、統合失調症の入院患者数を 15 万人に減少することを、目標値として示した。さらに、2012 年の医療計画では、精神疾患患者の早期退院に向けた支援を提供することと、患者ができるだけ長く地域生活を継続できることを目標に、地域生活や社会生活を支える機能の充実を目指すことが示された。精神疾患の患者数が急増している中、統合失調症の外来患者数は増加し、入院患者数は減少傾向にある。今後も、入院患者数の減少傾向は続くことが予測されており、統合失調症患者に対して、地域生活の継続を支援する医療を提供する重要性は高い。

統合失調症は、薬物療法の進歩や心理社会的治療による効果、軽症化の指摘、発症から数年の臨界期における集中的な治療･ケアがよりよい状態の維持につながるなど、予後不良や進行性であるとの見方から､回復の可能性があるとの見方へと転換されるようになってきた｡それに伴い、身体の慢性疾患と同じく、病気とうまく付き合いながら、その人らしく生活できることを目指すためのセルフマネジメントが重要であり、セルフマネジメントを高める援助に着目する必要がある。しかし、統合失調症による認知機能の障害は、判断や選択など、行動を遂行する過程に支障をきたしやすく、自我の障害によっても主体的な行動が阻まれやすいことから、生活の中でセルフマネジメントをうまく機能させることは容易ではない。そのため、疾患特性を踏まえたセルフマネジメントの支援が重要である。

セルフマネジメントを支援するプログラムは、Lorig ら[1)]の開発した慢性疾患セルフマネジメントプログラムを始めとして、身体疾患の特性に応じたプログラムやモデルの開発が進んでいる。統合失調症患者を対象にしたものでは、石川ら[2)]がセルフマネジメントの看護援助モデルの開発を行い、援助の指針を示している。また、セルフマネジメントのケアが、統合失調症をもつ人の主体性を尊重し、当事者の力を強化する支援となること[3)]、セルフマネジメント教育を受けた統合失調症患者の方が、教育を受けていない患者よりも、服薬アドヒアランスと症状の改善への効果が見られること[4)]や、セルフマネジメントプログラムが患者のリカバリーに有効である[5)]､などの報告もある｡統合失調症をもつ人のセルフマネジメントを促進する看護ケアとして、5 つのアプローチが明らかになっており[6)][7)]、自我機能に着目し、「自我機能を整える」アプローチを基盤にケアを展開することの重要性が示唆されている[6)]。

そこで、その人なりのよりよい生活を目指し、生活上の課題に対して、主体的に取り組むことを支援するセルフマネジメントの援助を、日常生活の援助に組み込み、展開できるためのモデルを開発することが必要である。中でも発症後早期の介入が長期的な予後への影響因子になることから、好発年齢である、若年層の統合失調症をもつ人を対象にセルフマネジメントを強化し、病気とうまく付き合いながら、よりよい状態で地域生活を営むことを援助するモデルの開発が必要である。

２．研究の目的

本研究の目的は、統合失調症をもつ若年者に対するセルフマネジメントの看護ケアを行う際に、看護師が実践している看護ケア（看護ケアの内容と意図）を明らかにすることである。最終的には、自我機能に注目するセルフマネジメント促進の看護ケアモデルを作成する。なお本研究での若年者は 35 歳以下とした。

３．研究の方法

（１）先行研究、国内外の文献検討を行い、精神疾患あるいは身体疾患をもつ若年層の人におけるセルフマネジメントの課題、セルフマネジメントへの介入について分類、整理を行った。

（２）四国・近畿・中部・関東の病院あるいは訪問看護ステーションに所属し、統合失調症をもつ若年者に対してセルフマネジメントを促進するための看護ケアを実践したことがある精神看護専門看護師及び精神看護師に面接調査を実施した。平成 28 年度の文献検討を踏まえてインタビューガイドを作成し、統合失調症をもつ若年者に対して実践しているセルフマネジメントを促進する看護ケアの具体的内容と、患者のセルフマネジメントと患者の自我機能・生活機能の関連についてのアセスメント内容、看護ケアの必要性を判断した理由、ケアを実践後の患者の反応や変化をどのように捉えているかなどについて、面接を行った。

（３）面接の録音内容を逐語録に起こし、質的に分析した。具体的には統合失調症をもつ若年者に対するセルフマネジメントの看護ケアで行っている、自我機能・症状・生活の機能に関する情報の捉え方や判断、ケアの内容、看護師の姿勢に関するデータを抽出し、研究者間で共通性、相違性を比較しながらカテゴリー化を行った。

（４）統合失調症をもつ若年者に対するセルフマネジメント促進の看護ケアにおける、看護師の姿勢、自我機能に着目したケアでのアセスメントの視点、セルフマネジメントを促進する看護ケアの具体的内容について先行研究と照合し、若年者での特徴を検討しながら分類と整理を行った。

４．研究成果

（１）疾患を持つ若年層のセルフマネジメントに関する文献検討

平成 28 年度は国内外の文献より、精神疾患あるいは身体疾患をもつ若年層の人のセルフマネジメントについて検討した。若年層のセルフマネジメントの課題には「病気の状態」「対人関係」「スティグマ」などがあること、「症状への気づきや認知」「病気に対する姿勢」「自己に対する否定的な認知」「セルフマネジメントの行動」「望む生活とのギャップ」について、「診断後間もない時期」「入院中」「現在」など病気や治療の段階ごとに把握すること、家庭生活や学校生活など活動の場に応じて健康的な生活を維持するために「活動への参加を支える」介入や、発達段階を踏まえて「自我発達を支える」介入などに整理された。

（２）統合失調症を持つ若年者のセルフマネジメントを促進する看護ケアにおける自我機能のアセスメントの視点について

自我機能に着目するケアにおけるアセスメントは 23 の視点に分類された。なんでも受け入れてしまう脆さや自分の意に反しても従ってしまうなど「影響の取り込みやすさ」、自分の疲労度を意識できるや、いつもの状態でない違和感などの「心身の健康の違和感」、プレッシャーを感じやすいや看護師に確認を求めるなどの「不安に耐えられる」、自分から話せるようになるなど「言いたいことを伝えられる」、話題の共有ができるや他者の言葉を受け入れることができるなど「他者との共有ができる」、自分のやりたいことを考えるや自立して暮らしたいといった「自立した生活への意志」などに分類された。

統合失調症をもつ人のセルフマネジメント促進のケアに関する先行研究や自我や自我機能に関するケアの文献検討ではアセスメントの項目が 32 項目に整理された。この 32 項目と本研究の 23 の視点を照合し、臨床での活用のしやすさを考慮しアセスメントの項目としての表現の洗練化、項目の検討を行った。

（３）統合失調症を持つ若年者のセルフマネジメントを促進する看護ケアの内容について

統合失調症を持つ若年者のセルフマネジメントを促進する看護ケアについては、『現実的な思考感覚をもてるようにする』『病状に伴う不安定な感情を落ち着かせる』『自分の体験と照らして病気のことを考える機会を持つ』『体調を維持するために他者との交渉の仕方を身につける』『自尊感情の回復につながる活動を見つける』などの 14 の大カテゴリー、65 の中カテゴリ―、255 の小カテゴリーに分類された。

例えば、『現実的な思考感覚をもてるようにする』では、自分の感情や思考に気づかせるようにしたり、白か黒か断定するような思考から抜け出す方法に気づかせる、体験していることを本人にあった言葉を探して返すなどのケアが含まれる。『病状に伴う不安定な感情を落ち着かせる』には、若年者は恐怖が強いため症状の安定を優先する、定期的に会って病的体験による恐怖心を解く、反論せずにそばにいる、大変さや頑張っていることを認めるなどが含まれる。『自分の体験と照らして病気のことを考える機会を持つ』には、症状について書かれた冊子を使って病的体験の話をする、関心を持った時に手に取れるように手元に病気に関する冊子を置くなどが含まれる。『体調を維持するために他者との交渉の仕方を身につける』には、薬の調整に対する意見を医師に伝え交渉するよう説得する、自分に向かない仕事を勧められても断ることの必要性を話す、家族との距離がとれるように話し合うなどが含まれる。『自尊感情の回復につながる活動を見つける』には、患者のいいところや前向きなところを伸ばす、好きなことをすればよいと伝える、役割を持ってもらうなどが含まれる。

先行研究において統合失調症をもつ人のセルフマネジメント促進の看護は、自我機能を整える、症状からの自立を促す、自己をつかむことを促す、支援との結びつきを強める、その人なりの生活を支える、の 5 つのアプローチであることが明らかになっている[6) 7)]。本研究結果の看護ケアと 5 つのアプローチと対比した結果、先行研究の 5 つのアプローチにすべて包含され、5 つのアプローチを基盤としてモデル作成が可能であると考えられた。中でも自我機能を整えるアプローチと、その人なりの生活を支えるアプローチに対応する看護ケアが多くみられ、両アプローチのバランスをとることが若年者のケアを実施する際の特徴でありモデルに反映させる必要があると考えられた。

（４）統合失調症を持つ若年者のセルフマネジメントを促進する看護ケアにおける看護師の姿勢について

セルフマネジメントを促進する看護ケアにおける看護師の姿勢は、見ている現実が違うと認識して、看護師の持つ現実を押し付けないようにするなど【見えている現実の違いをわきまえる】姿勢、病気への直面化は必ずしも必要とは考えないなど【病気が自分の体験として落ちてくる時機がある】と捉える姿勢、その人の描く人生や自立したい気持ちを尊重するなど【その人の人生として決めていけることが大事である】という姿勢、その時の状態や状況に合わせて安心して関われる相手となるなど【成長と回復に合わせた関係性の変化が必要である】という姿勢、失敗も覚悟してやりたいことを後押しするなど【失敗も糧に成長する大人として付き合う】姿勢の 5 つの大カテゴリーと、16 の中カテゴリー、49 の小カテゴリーが明らかになった。これらの 5 つの姿勢から、精神科看護師は患者が若年者であることを意識し、若年者の自我発達に着目することを重視してケアに臨んでいることが考えられた。また病気との付き合いの浅い若年者の困惑に

配慮することも重視していると考えられた。
　看護師の姿勢の 5 つの大カテゴリーと看護ケアの 14 の大カテゴリーとの関連を検討し、【見えている現実の違いをわきまえる】と【病気が自分の体験として落ちてくる時機がある】の姿勢に関連した看護ケアが多いことが明らかになった。

（5）今後の課題について
　最終的にはモデル案によるケアの実施と評価を行うこととしていたが、分析とモデル案の作成に時間を要し、モデル案の検証に至らなかった。本研究の成果を臨床で活用しさらに洗練化を重ねることが課題である。

引用文献
１）Lorig K. , Holman H., Sobel D., et al.(2006) /近藤房江訳：病気とともに生きる－慢性疾患のセルフマネジメント(第１版), 日本看護協会出版会、1-11、2008.
２）石川かおり, 岩﨑弥生：統合失調症をもつ人の地域生活におけるセルフマネジメントを支える看護援助の開発(第三報)－仮説モデルを用いた看護実践の分析－、千葉看護学会会誌 14(1)、34-43、2008.
３）田井雅子、野嶋佐由美：セルフマネジメントの概念に関する文献検討　統合失調症をもつ人に対する活用、高知女子大学看護学会誌 39(2)、12-23、2014.
４）Zou H, Li Z, Marie T., Nolan m.T.,et al.:Self-management education intervention for persons with schizophrenia: A meta-analysis, International Journal of Mental Health Nursing, 22, 256-271, 2013.
５）Chan S.W.C., Li Z. Klainin-Yobas P.,et al.:Effectiveness of a peer-led self-management programme for people with schizophrenia:protocol for randomaized controlled trail.,Journal of Advanced Nursing,70(6), 1425-1435,2013.
６）田井雅子、野嶋佐由美：統合失調症をもつ人のセルフマネジメント促進に向けての自我･自己を支える看護ケア、高知女子大学看護学会誌 40(2)、31-41、2015.
７）田井雅子、野嶋佐由美：統合失調症をもつ人に対するセルフマネジメント促進に向けた看護ケア―生活の歩みを支える―、高知女子大学看護学会誌 41(2)、12-21、2016.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 田井雅子　畦地博子　塩見理香　井上さや子　瀧めぐみ
２．発表標題 統合失調症の若年者のセルフマネジメントを促進するケアを行う看護師の姿勢
３．学会等名 日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	井上　さや子 (Inoue Sayako) (30758967)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	
研究分担者	塩見　理香 (Shiomi Rika) (70758987)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	
研究分担者	畦地　博子 (Azechi Hiroko) (80264985)	高知県立大学・看護学部・教授 (26401)	
研究分担者	瀧　めぐみ (Taki Megumi) (80806026)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	